

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3143796号
(U3143796)

(45) 発行日 平成20年8月7日 (2008.8.7)

(24) 登録日 平成20年7月16日 (2008.7.16)

(51) Int.Cl.

A 4 7 K 7/02 (2006.01)

F 1

A 4 7 K 7/02

A

A 4 7 K 7/02

C

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2008-3398 (U2008-3398)
(22) 出願日 平成20年5月26日 (2008.5.26)(73) 実用新案権者 508155549
小西 純子
兵庫県佐用郡佐用町安川 1 2 0 1 - 2 小
西キク方
(74) 代理人 100069578
弁理士 藤川 忠司
(74) 代理人 100154014
弁理士 正木 裕士
(74) 代理人 100154520
弁理士 藤川 祐子
(72) 考案者 小西 純子
兵庫県佐用郡佐用町安川 1 2 0 1 - 2 小
西キク方

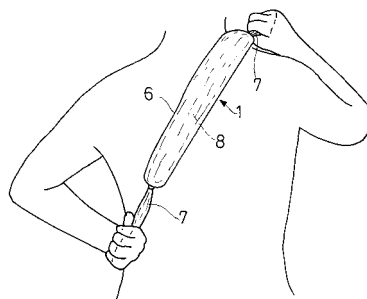
(54) 【考案の名称】 入浴用タオル

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 身体の背中部だけでなくその背中部以外の部分も効率良く洗える入浴用タオルを提供する。

【解決手段】 表面が粗い合成繊維からなる長尺带状布体 1 の中央部両側縁どうしを縫製糸で縫い合わせることに
より筒状タオル本体 6 が形成されると共に、その布体 1
の両端部がタオル本体 6 の両端に一体形成された一对の
把持部 7 とされ、前記タオル本体 6 内に伸縮可能な弾性
芯材 8 が挿入されており、身体の背中部を洗う場合には
、把持部 7 を両手で把持し、タオル本体 6 を背中部に当
てつけ、そのタオル本体 6 を上下斜め方向に押し引きす
る。

【選択図】 図 4



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

表面の粗い合成繊維からなる長尺帯状布体の両端部を把持して該布体の中央部で身体の背中部を洗うようにした入浴用タオルにおいて、前記布体の中央部両側縁どうしを縫い合わせるにより筒状タオル本体が形成されると共に、その布体の両端部がタオル本体の両端に一体形成された一对の把持部とされ、前記タオル本体内に伸縮可能な弾性芯材が挿入されてなる入浴用タオル。

【請求項 2】

前記弾性芯材が、柔軟な吸水性布体の両側縁を縫い合わせて筒状に形成した収納筒と、該収納筒内に収納した発泡合成樹脂材からなる複数の弾性細芯材とからなる請求項 1 に記載の入浴用タオル。

【請求項 3】

前記布体の各把持部とタオル本体との間にストッパリングが外嵌されてなる請求項 1 または 2 に記載の入浴用タオル。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は入浴用タオルに関し、特に、身体の背中部だけでなくその背中部以外の部分も効率良く洗うことができるようにしたものである。

【背景技術】

【0002】

従来、入浴用タオルとして木綿や麻などの天然繊維からなる布体が一般に用いられており、これは、柔らかくて肌に優しいが、石鹸の泡立ちが悪く、マッサージ効果や垢すり効果が低い。

【0003】

そこで、ナイロン、アクリル、ポリエステルなどの表面が粗い合成繊維からなる長尺帯状布体 1（図 6 参照）でつくられた入浴タオルが用いられており、これによると、石鹸の泡立ちが良く、肌に心地良く当たってマッサージ効果や垢すり効果もあり、しかも、布体 1 を小さく丸めることにより身体の背中部以外の部分をくまなく洗うことができる。

【0004】

しかし、図 6 の使用状態の説明図に示すように、布体 1 の両端部を把持して該布体 1 の中央部で身体の背中部を洗うときに、その布体 1 が 1 本の緊張した紐状になるため、背中部の左右の肩甲骨間などの窪み部が洗い残されやすい。

【0005】

上記欠点を解消する技術として特許文献 1 に記載した入浴用タオルがある。これは、図 7 の使用状態の説明図に示すように、タオル本体 2 と、該タオル本体 2 の両端部に連結した一对の把手部 3 とを有し、タオル本体 2 の中央に設けた袋部に凹凸ブロック 4 を収納したものであって、その凹凸ブロック 4 は、例えば発泡ポリエチレン製であって、長さが約 110 mm、幅が約 70 mm、厚さが約 50 mm の略ラグビーボール状に形成され、その凹凸ブロック 4 の表面に直径及び長さが 5 mm の突起部が 5 ～ 15 mm の間隔で多数突設されている。

【0006】

この入浴タオルで身体の背中部を洗う場合には、図 6 に示すように、各把手部 3 を両手で把持し、タオル本体 2 を背中部に当てつけ、そのタオル本体 2 を上下斜め方向に押し引きする。これによれば、タオル本体 2 内の凹凸ブロック 4 で背中部の左右の肩甲骨間などの窪み部を洗うことができる。

【特許文献 1】特開 2006-198386 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0007】

10

20

30

40

50

上記従来の構成では、中央に袋部を形成したタオル本体 2 及び一对の把手部 3 と特殊形状の凹凸ブロック 4 とを有し、その各部品の形状が複雑で比較的高価であり、しかも部品点数が多いので、製作費が高つく。

【0008】

また、背中部の左右の肩甲骨間などの窪み部を洗うことができるかも知れないが、背中部全体または背中部以外の部分を効率良く洗うことが難しい面があった。

【0009】

本考案は、上記従来の欠点に鑑み、安価な構造で身体の背中部だけでなくその背中部以外の部分も効率良く洗うことができるようにした入浴用タオルを提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0010】

上記目的を達成するための構成を実施の形態に対応する図面に基づいて説明すると、請求項 1 に記載の考案は、表面の粗い合成繊維からなる長尺帯状布体 1 の両端部を把持して該布体 1 の中央部で身体の背中部を洗うようにした入浴用タオルにおいて、前記布体 1 の中央部両側縁どうしを縫い合わせるにより筒状タオル本体 6 が形成されると共に、その布体 1 の両端部がタオル本体 6 の両端に一体形成された一对の把持部 7 とされ、前記タオル本体 6 内に伸縮可能な弾性芯材 8 が挿入されている。

【0011】

請求項 2 に記載の考案によれば、請求項 1 に記載の考案において、前記弾性芯材 8 が、柔軟な吸水性布体 1 の両側縁を縫い合わせて筒状に形成した収納筒 8 a と、該収納筒 8 a 内に収納した発泡合成樹脂材からなる複数の弾性細芯材 8 b とからなっている。

【0012】

請求項 3 に記載の考案によれば、請求項 1 または 2 に記載の考案において、前記布体 1 の各把持部 7 とタオル本体 6 との間にストッパリング 9 が外嵌されている。

【考案の効果】

【0013】

請求項 1 に記載の考案によれば、身体の背中部を洗う場合には、把持部 7 を両手で把持し、タオル本体 6 を背中部に当てつけ、そのタオル本体 6 を上下斜め方向に押し引きすればよく、このとき、タオル本体 6 に挿入した伸縮可能な弾性芯材 8 が背中部の左右の肩甲骨間などの窪み部に沿って弾性変位されるから、その窪み部にタオル本体 6 を密着させて、そのタオル本体 6 により背中部の窪み部を確実に洗うことができる。

【0014】

また、身体の背中部以外の部分を洗う場合には、両把持部 7 をタオル本体 6 に重ね合わせて、その両把持部 7 とタオル本体 6 とを把持することにより、そのタオル本体 6 で身体

【0015】

の場合、両把持部 7 が薄い布体 1 で形成されているから、該両把持部 7 をタオル本体 6 上に嵩張らないように容易に重ね合わせて、その両把持部 7 とタオル本体 6 とを確実に把持することができる。

【0016】

更に、前記タオル本体 6 が表面の粗い合成繊維で形成されているから、石鹸の泡立ちが良く、肌に心地良く当たってマッサージ効果や垢すり効果も得ることができる。

【0017】

しかも、タオル本体 6 及び両把持部 7 が安価な量産品である合成繊維からなる一枚の布体 1 で形成され、その布体 1 の中央部両側縁どうしを縫い合わせて筒状に形成したタオル本体 6 内に弾性芯材 8 が挿入されているだけであるから、部品点数が少なく、製作費を安くすることができる。

【0018】

請求項 2 に記載の考案によれば、例えばフェルトなどの安価で市販の柔軟な吸水性布体

10

20

30

40

50

の両側縁を縫い合わせるだけで収納筒 8 a を形成することができ、その収納筒 8 a 内に複数の弾性細芯材 8 b を収納することにより所望径の弾性芯材 8 を形成することができ、弾性細芯材 8 b としても安価で市販の発泡合成樹脂材を使用することにより、製作費を安くすることができる。また、弾性細芯材 8 b は複数本収納されることによって、互いに長手方向や幅方向に変位可能であるから、一本の芯材よりも洗い使用時におけるなじみ性が良く、洗い効果を一層上げることができる。

【0019】

請求項 3 に記載の考案よれば、布体 1 の各把持部 7 とタオル本体 6 との間がストッパリング 9 で仕切られているから、タオル本体 6 内の弾性芯材 8 が使用中に不測に位置ずれされることがなく、使い勝手がよい。

【考案を実施するための最良の形態】

【0020】

図 1 ～図 5 は本考案の実施の一形態である入浴用タオルを示すものであって、図 1 は同斜視図、図 2 (a) は同正面図、図 2 (b) は A-A 矢視図、図 2 (c) は B-B 矢視図、図 2 (d) は C-C 矢視図、図 3 は同分解斜視図、図 4 は使用状態の一例を示す説明図、図 5 は使用状態の他の例を示す説明図である。

【0021】

図 1 ～図 3 に示すように、ナイロン、アクリル、ポリエステルなどの表面が粗い合成繊維からなる長尺带状布体 1 の中央部両側縁どうしを縫製系 5 で縫い合わせるにより筒状タオル本体 6 が形成されると共に、その布体 1 の両端部がタオル本体 6 の両端に一体形成された一对の把持部 7 とされ、前記タオル本体 6 内に伸縮可能な弾性芯材 8 が挿入されている。

【0022】

図 2 及び図 3 に示すように、前記弾性芯材 8 は、フェルトなどの柔軟な吸水性布体の両側縁を縫製系 5 で縫い合わせて筒状に形成した収納筒 8 a と、該収納筒 8 a 内に収納した例えば発泡ポリエチレン、ポリウレタンフォーム、発泡ウレタンなどの発泡合成樹脂材からなる複数（この実施の形態では 3 本）の弾性細芯材 8 b とからなっている。

【0023】

この場合、例えばフェルトなどの安価で市販の柔軟な吸水性布体の両側縁を縫い合わせるだけで収納筒 8 a を形成することができ、その収納筒 8 a 内に複数の弾性細芯材 8 b を収納することにより所望径の弾性芯材 8 を形成することができ、弾性細芯材 8 b としても安価で市販の発泡合成樹脂材を使用することにより、製作費を安くすることができる。また、弾性細芯材 8 b は複数本収納されることによって、互いに長手方向や幅方向に変位可能であるから、一本の芯材よりも洗い使用時におけるなじみ性が良く、洗い効果を一層上げることができる。

【0024】

図 2 (c) 及び図 3 に示すように、布体 1 の各把持部 7 とタオル本体 6 との間に弾性金属からなるストッパリング 9 が外嵌されている。

【0025】

この場合、布体 1 の各把持部 7 とタオル本体 6 との間がストッパリング 9 で仕切られているから、タオル本体 6 内の弾性芯材 8 が使用中に不測に位置ずれされることがなく、使い勝手がよい。

【0026】

入浴用タオルの形成手順を説明すると、複数の弾性細芯材 8 b を収納筒 8 a に収納して所望径の弾性芯材 8 を形成し、その弾性芯材 8 をタオル本体 6 内に挿入し、各ストッパリング 9 を布体 1 に外嵌させてタオル本体 6 と各把持部 7 との間に位置決めする。

【0027】

入浴タオルで身体の中背部を洗う場合には、図 4 に示すように、把持部 7 を両手で把持し、タオル本体 6 を中背部に当てつけ、そのタオル本体 6 を上下斜め方向に押し引きすればよく、このとき、タオル本体 6 に挿入した伸縮可能な弾性芯材 8 が中背部の左右の肩甲

10

20

30

40

50

骨間などの窪み部に沿って弾性変位されるから、その窪み部にタオル本体 6 を密着させて、そのタオル本体 6 により背中部の窪み部を確実に洗うことができる。

【0028】

身体の背中部以外の部分を洗う場合には、図 5 に示すように、両把持部 7 をタオル本体 6 に重ね合わせて、その両把持部 7 とタオル本体 6 とを把持することにより、そのタオル本体 6 で身体の背中部以外の部分をくまなく効率良く洗うことができる。

【0029】

この場合、両把持部 7 が薄い布体 1 で形成されているから、該両把持部 7 をタオル本体 6 上に嵩張らないように容易に重ね合わせて、その両把持部 7 とタオル本体 6 とを確実に把持することができる。

10

【0030】

上記構成によれば、タオル本体 6 が表面の粗い合成繊維で形成されているから、石鹸の泡立ちが良く、肌に心地良く当たってマッサージ効果や垢すり効果も得ることができる。

【0031】

しかも、タオル本体 6 及び両把持部 7 が安価な量産品である合成繊維からなる一枚の布体 1 で形成され、その布体 1 の中央部両側縁どうしを縫い合わせて筒状に形成したタオル本体 6 内に弾性芯材 8 が挿入されているだけであるから、部品点数が少なく、製作費を安くすることができる。

【0032】

上記した実施の一形態では、弾性芯材 8 を収納筒 8 a と複数の弾性細芯材 8 b とで形成したが、これに限定されるわけではなく、収納筒 8 a を省略し、例えば発泡ポリエチレン、ポリウレタンフォーム、発泡ウレタンなどからなる 1 つまた複数の発泡合成樹脂材で弾性芯材 8 を形成してもよい。

20

【0033】

また、ストッパリング 9 に代えて、例えば縫製糸 5 を布体 1 の各把持部 7 とタオル本体 6 との間に巻き付けてもよい。

【図面の簡単な説明】

【0034】

【図 1】本考案の実施の一形態である入浴用タオルの斜視図である。

【図 2】(a) は同正面図、(b) は A-A 矢視図、(c) は B-B 矢視図、(d) は C-C 矢視図である。

30

【図 3】同分解斜視図である。

【図 4】使用状態の一例を示す説明図である。

【図 5】使用状態の他の例を示す説明図である。

【図 6】従来の一例を示す使用状態の説明図である。

【図 7】従来 of 他の例を示す使用状態の説明図である。

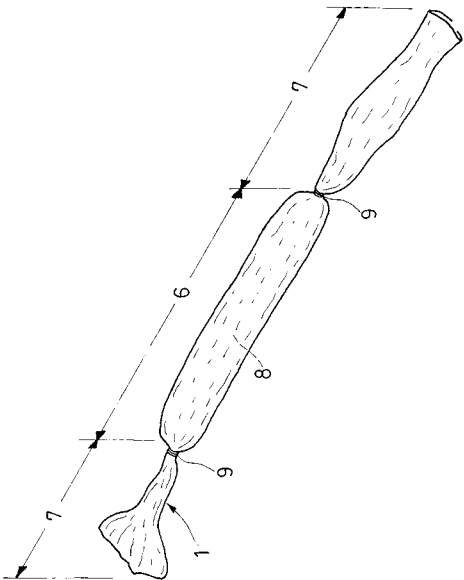
【符号の説明】

【0035】

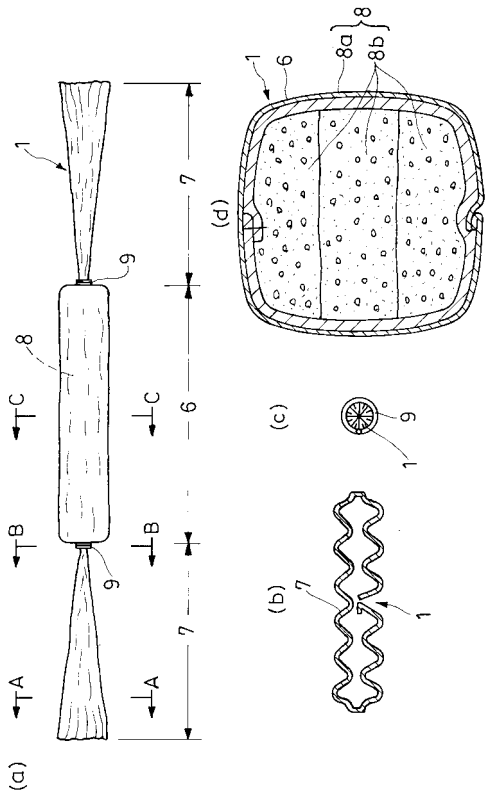
- | | |
|-----|------------|
| 1 | 布体 |
| 5 | 縫製糸 |
| 6 | タオル本体 |
| 7 | 把持部 |
| 8 | 弾性芯材 |
| 8 a | 弾性芯材の収納筒 |
| 8 b | 弾性芯材の弾性細芯材 |
| 9 | ストッパリング |

40

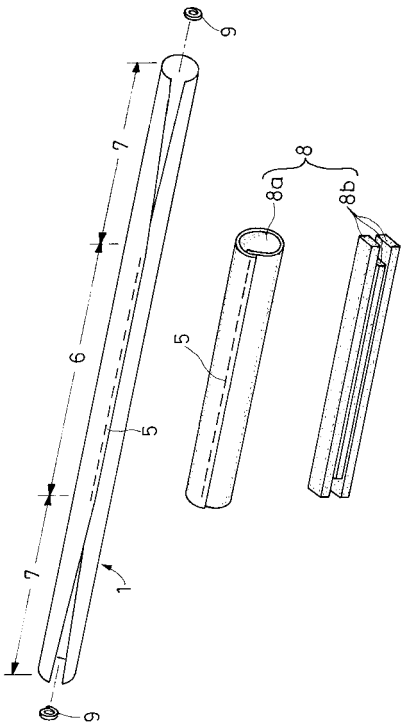
【図 1】



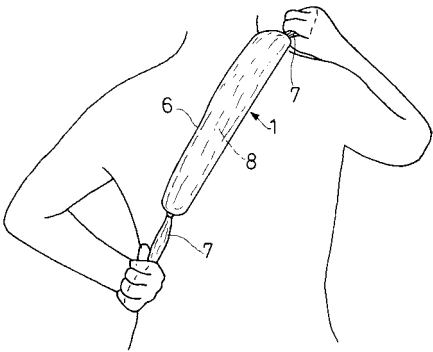
【図 2】



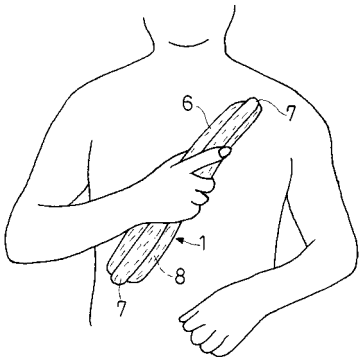
【図 3】



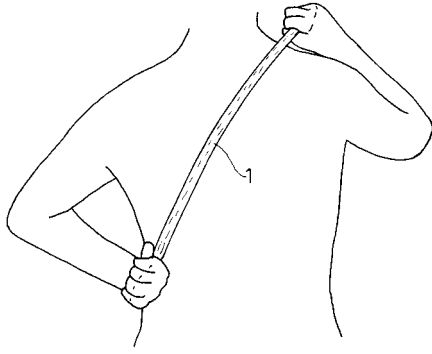
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

